

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和7年度 第2回東広島市男女共同参画推進審議会
開催日時	令和8年3月26日（木）10:00～11:00
開催場所	芸術文化ホールくらら201会議室
出席者氏名	坂田会長、藤本副会長、浅沼委員、市場委員、梅田委員、大石委員、大久保委員、岡本委員、陣内委員、住田委員、瀧口委員、橋本委員
欠席者氏名	なし
事務局職員氏名	産業部 商工労働・女性活躍担当 細谷部長 人権男女共同参画課 川内課長、武上係長、河内主査
会議次第	1 開会 2 議事 議題1 会長・副会長の選出 議題2 令和7年度男女共同参画推進事業取組状況について【資料1】 議題3 令和8年度男女共同参画推進事業実施計画（案）について【資料2】 3 報告 東広島市男女共同参画推進室（エスポワール）の体制強化について【資料3】 4 閉会
配付資料	・令和7年度男女共同参画推進事業取組状況 【資料1】 ・令和8年度男女共同参画推進事業実施計画（案） 【資料2】 ・東広島市男女共同参画推進室（エスポワール）の体制強化について【資料3】 ・東広島市男女共同参画推進審議会委員名簿 ・東広島市男女共同参画推進審議会規則
議事内容（要旨）	
事務局	・開会 ・新委員の紹介 ・出席者の挨拶 ・配付資料の確認 ・議題1 会長・副会長の選出（会長→坂田委員、副会長→藤本委員） ・坂田会長、藤本副会長挨拶
坂田会長 （議事進行）	・議題2 令和7年度男女共同参画推進事業取組状況について事務局より説明を求める。
事務局	・資料1 説明

坂田会長 (議事進行)	・質問や意見があれば伺いたい。
藤本副会長	・この会には長年参加させていただいているが、年々、事業内容が充実してきていると認識している。特に、若い世代がイベントに参加している点は評価できる。
橋本委員	・多くの事業を実施している中で、参加者が重複しているのか、特定の人に偏っていないか、参加の広がりがあるのかといった点や、参加者の属性について確認したい。
事務局	・例えば、事業番号1「ワーク・ライフ・バランス講座」では、定員20人の募集に対し、定員を上回る応募があった。当日は欠席者が出たため、参加者数はやや減少したが、周知や集客については引き続き力を入れていきたい。参加者の重複はほとんどなく、関心の高いテーマを今後も実施していく。
大久保委員	・人数の男女比を教えてほしい。
事務局	・女性の比率が高い傾向がある。男性の意識を変えていく必要がある。女性限定の事業ではないが、参加者は女性が多い傾向にある。事業番号1「ワーク・ライフ・バランス講座」、事業番号18「椅子ストレッチ」は夫婦で参加されている方もおり、男性にも広がりつつある。事業番号13「企業向けアンコンシャス・バイアス研修」では男性の参加者が多かった。
坂田会長 (議事進行)	・その他、質問や意見などあれば伺いたい。 (質問、意見なし) ・取組状況については、当審議会で確認したこととする。 ・議題3 令和8年度男女共同参画推進事業実施計画(案)について、事務局より説明を求める。
藤本副会長	・事業番号3「エスポワール塾」の実施場所は市役所本庁舎となっているが、参加者によって市役所が参加しやすい場所であるか、また、「くらら」など周辺施設や周辺地域の方が参加しやすいのかについて、検討してほしい。
事務局	・実施場所は未定であるが、市役所周辺であれば市役所に駐車してもらうことも可能であることから、市役所や「くらら」を含む周辺施設を中心に検討している。参加者の利便性を踏まえ、柔軟に検討していく。
市場委員	・毎年、事業の成果を踏まえて内容を統合するなどの工夫がなされており、新規事業の実施も評価できる。例えば、事業番号9「人形劇」は、子どもたちを対象とした啓発として意義のある取組である。そこで、人形劇の応募方法については、「いきいきこどもクラブ」からの依頼によるものか、または人権男女共同参画課側から働きかけをしているのか。
事務局	・毎年、いきいきこどもクラブへ周知により実施希望があるものの、夏休み限定事業のため件数に制限がある。そのため、令和6年度に未実施となったクラブを優先し、令和7年度に対応している。
大石委員	・令和7年度は、18事業、令和8年度は15事業と、事業内容がますます充実している。今後は、周知を通じていかに集客につなげていくかが重要である。良い取組を実施しているからこそ、周知・集客の面で工夫している点があれば教えてほしい。また、審議会に出席されている委員の皆様にも、周知方法についてご協力いただきたい。
事務局	・イベント実施時には、「イベントを何で知りましたか」というアンケートを実施し

	ており、広報紙との回答が最も多い。多くの方がスマートフォンを所持していることから、ホームページやポータルサイト、SNS を活用しているが、SNS については十分に活用しきれていないと感じており、今後はその充実を図っていく。
大石委員	・フジグラン東広島でのアウトリーチを通じて、より多くの方に事業に触れてもらえるよう取り組んでもらいたい。こちらから外に出てアウトリーチを行うことで、幅広い層に周知できると考えている。良い事業を実施していても、知ってもらえなければ意味がないため、今後は、このような形で取組を進めていってほしい。
橋本委員	・事業番号6「男女共同参画週間イベント」は、ステージを設けて、司会者が進行するようなイベントなのか。
事務局	・現在検討している内容としては、フジグラン東広島1階の広場の半分を借用し、トークショーの実施を予定している。出演者については交渉中であり、決定次第、改めてお知らせしたい。
橋本委員	・周知することも大切だが、内容の分かりやすさも大切である。男女共同参画を全面に出すと、やや堅い印象を与えがちであるため、テーマはしっかり持ちつつも、少し楽しく親しみやすいタイトルにすることで、周知時に関心を持つ人が増えるのではないかな。
梅田委員	・資料の備考欄には、市役所他部署との連携について記載されているが、フジグランでのイベントも含め、男女共同参画はやや抽象度が高い分野であると感じている。そこで、これまでに実施してきた他部署との連携内容について教えてほしい。また、今後どのような連携を考えているのかについても併せて聞きたい。
事務局	・人権男女共同参画課だけでは対応が難しい事業もあることから、産業振興課、青少年育成課、危機管理課と連携し、協力して事業を実施している。令和8年度についても、引き続き連携を強化して取り組んでいきたいと考えている。また、企業向けのアンコンシャス・バイアス研修については、これまで企業との連携があまりなかったため、産業振興課と連携し実施することができた。現在は、ハローワークとも連携しており、今後についてもさらなる連携を検討していきたい。
細谷担当部長	・令和7年度からは子育て分野や産業部とも関係し、庁内で連携を図りながら事業を進めている。今回審議いただいている事業は意識啓発を中心とするものであり、ジェンダーギャップや固定的性別役割意識、アンコンシャス・バイアスの解消を目的としている。一方、産業部においては、働きやすい職場環境づくりを進めており、両輪となって取組を進めている。また、女性活躍については、令和7年度から庁内で横断的に課題を共有し、子育て支援や働き方改革など、複数の分野が関係することから、プロジェクトチームを立ち上げ、令和8年度に向けた取組についても連携しながら検討を進めている。
梅田委員	・男女共同参画社会の推進に向けた市の取組には、市民により広く知ってもらうことと、専門的な内容を深めることの両方の側面があるということですね。事業番号6「男女共同参画週間イベント」では、市民の方に分かりやすく周知し、関心を持って参加してもらえるような取組にしていきたい。
市場委員	・事業番号6「男女共同参画週間イベント」は、トークショーに加えてパネル展示も有効ではないかと考える。男女共同参画について、通りがかった人にも目に留まり、立ち止まって見てもらえるよう、視覚的にも工夫を取り入れてはどうか。

事務局	・現在、検討段階のため、今後取り入れていきたい。
坂田会長	・重要な企画であると考え、よろしくお願いします。
浅沼委員	・事業番号11「アンコンシャス・バイアス講座」は、令和7年度は市民向け、令和8年度は地域センター職員向けとしているが、何か特別な理由はあるのか。
事務局	・地域での男女共同参画を広げていくことを目的に、地域センターの職員を対象として講座を実施する予定である。職員に学んでもらうことで、各地域センターが主催する講座等に取り入れてもらい、取組が地域全体へ広がっていくことを期待している。
浅沼委員	・市民に直接向けたものではなく、今後、各地域で講座を開きやすくするための環境づくりという位置づけということか。
事務局	・市民を対象に令和7年度も講座を実施したが、集客が課題となった。今後は、地域センター主催の講座として定着し、地域の中で継続的に実施されていくことを期待している。
坂田会長 (議事進行)	・その他、質問や意見などあれば伺いたい。 (質問、意見なし) ・それでは、本日の意見を反映し、実施計画(案)に沿って事業を進めてもらうこととします。 ・報告事項「東広島市男女共同参画推進室(エスポワール)の体制強化について」事務局より説明を求めます。
事務局	・資料3 説明
坂田会長 (議事進行)	・質問や意見があれば伺いたい。
藤本副会長	・変更後の開所時間が月曜日から金曜日となっているが、「働く女性の相談室」は第3土曜日開催されている。今後、どのような形で運用されていくのか伺いたい。
事務局	・相談室については、市民文化センターで引き続き実施する。相談者には継続して利用されている方もいることから、相談しやすさを考慮し、場所を変更しないこととした。
坂田会長	・東広島市では数年おきに男女共同参画の意識調査を実施しているが、エスポワールの知名度は継続して低い状況にある。エスポワールという名称は親しみやすい一方で、何を行う施設なのか分かりにくいという意見がある。場所を人権男女共同参画課内に移設することで、趣旨や役割が明確になるのではないかと考える。
事務局	・エスポワールは30年わたり市民文化センター2階に設置されており、県内でも他市にはあまりない先進的な取組ではあった。現在、同様の施設は広島市にのみ残っており、福山市は撤退している。市役所とは異なる場所に設置していることによるPR効果は一定程度あったものの、市民への浸透は十分とは言えず、意識調査においてもいまだに2割にとどまっている。このため、エスポワールを市役所内へ移転し、電話番号は引き続き使用しながら相談対応を行うこととした。相談内容は、転職やキャリアアップ・子育て・介護・健康など多岐にわたっており、庁舎内に設置することで他部署との連携がより円滑になると考えている。今後は、全庁的に相談体制の強化を図り、4月の移転を契機に、より一層取り組んでいきたい。
坂田会長	・その他、質問や意見などがあれば伺いたい。

(議事進行)	(質問、意見なし) ・本日予定されていた議題及び報告は全て終了した。 ・せっかくの機会なので、委員の皆さんからの意見などあれば伺いたい。
橋本委員	・エスポワールは知名度が低いという課題があり、私自身名称の意味も分かりにくいと感じている。長く続いてきた取組であるため、名称自体は継続しながら、より親しみやすくする工夫が必要ではないかと考えた。その一つとして、キャラクターを作ることを提案したい。市民からキャラクターを募集することで、その過程で、エスポワールのコンセプトや男女共同参画について考えてもらうきっかけにもなる。こうした取組を通じて、理解や関心を深めることにつながればよいと考えて提案させてもらった。
坂田会長	・啓発効果があり、良い取組である。
岡本委員	・審議会に初めて参加して、これまでの取組の枠組みはあるものの、市民が実際に困っていることや必要としていることを具体的に捉えることの大切さを感じた。意識を変えていくための教育は非常に重要であり、特に学校教育の中でアンコンシャス・バイアスが少しずつほぐれていくような仕組みがあればよいと考える。例えば、日常の何気ない会話の中で「なるほど、そういうことか」と市民レベルで気づきや納得につながるような工夫があってもよく、寸劇や人形劇といった手法も有効ではないかと感じた。学校教育の中に取り入れることや、自治協など地域においても意識改革が必要な場面は多いと思われる。日常生活の中でよくある場面を題材にし、誰もがイメージしやすい形で示すことで、意識改革につながりやすくなるのではないかと。そうした具体的なアプローチとして、どのような取組が考えられるのかについて話を聞かせていただいた。
坂田会長	・大変貴重な意見である。ぜひそのような観点を踏まえ、例えば「アンコンシャス・バイアス」講座について、現在は企業を対象としているが、学校への取組についても検討できないか。
事務局	・「いきいきこどもクラブ」において人形劇を実施し、アンケートを行っている。その中で、「父親が料理をする」「女の子が消防士になりたい」といった内容に対して肯定的な反応が多く、子どもたちは比較的意識が高いと感じている。一方で、世代間による意識のギャップも見られ、例えば自治協会長は、現在のところ女性がゼロで、副会長には複数名いる状況である。子どもの意識は変化してきており、親世代の意識も、変わってきているものの、世代ごとに差があると感じている。世代に応じた啓発を行うことができればよいと考える。
陣内委員	・豊栄に住んでいる立場からすると、北部3町は子どもが少なく高齢化率も非常に高い地域であり、地域センター職員向け研修は有効だと考えるが、一方で地域内で講座を開催することは難しい面もあると感じている。そのため、都市部に比べて家父長意識が根強い農村部においては、地域での講座よりも、小学校や中学校への出前講座の方が効果的ではないかと考える。今後は、農村部と都市部の意識のギャップについても視野に入れた取組を検討してもらえるとよい。
坂田会長	・そういった視点も重要であるため、ぜひ検討していただきたい。
坂田会長 (議事進行)	・その他、質問や意見などあれば伺いたい。 (質問、意見なし)

	・他に質問や意見がなければ、本議事を終了とする。
事務局	・挨拶 ・閉会